

種子島と馬毛島から得られた初記録の魚類 24 種

本村浩之¹・佐藤智水²

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）
 motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp (corresponding author)
² 鹿児島大学大学院農林水産学研究所（鹿児島市）
 k2377198@kadai.jp

Received 31 January 2025
 Revised 01 February 2025
 Accepted 01 February 2025
 Published 01 February 2025
 DOI 10.34583/ichthy.52.0_1

Hiroyuki Motomura and Masayuki C. Sato. 2025. New records of fishes from Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 52: 1–8.

Abstract

The total number of fish species previously recorded from Tanega-shima and Mage-shima islands (both and other seven islands belonging to the Osumi Group) was 1,184. Thirteen and 11 species were recorded from Tanega-shima and Mage-shima islands, respectively, for the first time in this study, 15 of these being recorded for the first time on both islands. Thus, the total number of recorded fish species on the two islands is now 1,199. Of the 15 newly recorded species, *Hippocampus japapigu* Short, Smith, Motomura, Harasti and Hamilton, 2018 (Syngnathidae) and *Bathygobius petrophilus* (Bleeker, 1853) (Gobiidae) from Tanega-shima island represent the first records of both species in the Osumi Group. Three species of *Pomacentrus taeniometopon* Bleeker, 1852 (Pomacentridae), *Minysynchiropus kiyoeae* (Fricke and Zaiser, 1983) (Callionymidae), and *Tomiyamichthys emilyae* Allen, Erdmann and Utama, 2019 (Gobiidae), previously reported only from underwater photographs in the Osumi Group, were recorded from Tanega-shima island on the basis of voucher specimens in this study. *Opistognathus variabilis* Smith-Vaniz, 2009 (Opistognathidae) from off Mage-shima island represents the northernmost record for this species.

Motomura (2023a) は種子島と馬毛島から得られた約 10,300 標本、および 1904 年から 2023 年 7 月にかけて出版された魚類の記録を再検討し、両島から 536 種の初記録を含む 167 科 538 属 1,181 種を報告した。その後、Motomura (2023b) は Motomura (2023a) の魚類リストを再集計し、種子島と馬毛島から記録された魚類は 168 科 538 属 1,179 種であったと正した。なお、種子島の魚類相の特徴とその

形成史については Motomura and Matsunuma (2022) や本村 (2024) に詳述されている。

Motomura (2023a, b) が出版された後、2023 年 8 月に Kobayashi and Sato (2023) は種子島宮瀬川産の 1 標本（体長 29.8 mm）を含む 35 標本に基づき、カワアナゴ科のヤミマダラハゼ *Ophiocara macrostoma* Kobayashi and Sato, 2023 を新種記載した。2023 年 11 月には馬毛島産の 1 標本（47.9 mm）を含む 38 標本に基づきホムラカサゴ *Neomerinthe ignea* Matsumoto, Muto and Motomura, 2023 が新種として記載された（Matsumoto et al., 2023）。百瀬 (2024) はヒメハゼ属の一種 *B Favonigobius* sp. B（4 標本：20.2–22.8 mm）を初めて種子島から記録した。緒方 (2023, 2024) は水中写真に基づき、西之表市からそれぞれハナヒゲウツボとクマドリカエルアンコウを報告した。Koeda and Bessho-Uehara (2024) は日本と台湾におけるハタンポ属の分類学的再検討の中で、これまで種子島からミナミハタンポ *Pempheris schwenkii* Bleeker, 1855 として記録されていたものの中にミズホハタンポ *Pempheris xanthoptera* Tominaga, 1963 が含まれることを報告した。

一方、Motomura (2023a) が種子島からイネゴチ *Cociella crocodila* (Cuvier, 1829) として報告した 1 標本（KAUM-I. 98957, 体長 120.0 mm）は、ササノハゴチ *Rogadius patriciae* Knapp, 1987 に再同定された（松沼瑞樹氏、私信；本研究）。ササノハゴチは別の標本に基づいて既に種子島から記録されており、イネゴチの種子島からの記録はなくなった。Motomura (2023a, b) 以降、上記の 6 種が追加で記録され、1 種の記録がなくなったため、現時点での種子島・馬毛島の魚類は 1,184 種である。

なお、Fujiwara et al. (2023) は Motomura (2023a) が馬毛島沖から記録したアゴアマダイ属の一種 *Opistognathus* sp. 1（2 標本）を含む 3 標本に基づき新種シラタマアゴアマダイ *Opistognathus ctenion* Fujiwara, Motomura and Shinohara, 2023 を記載した。Motomura (2023a) は西之表市と中種子町からヘビギンポ科のクサギンポを *Enneapterygius philippinus* (Peters, 1868) として報告したが、Dewa et al. (2023) の分類学的再検討によって、クサギンポの学名

は *Enneapterygius minutus* (Günther, 1877) となり、真の *E. philippinus* は日本からの記録がないことが明らかになった。Suzuki and Kimura (2023) は Motomura (2023a) が種子島から報告したイトヒキヒイラギ *Equulites leuciscus* (Günther, 1860) (3 標本) をワモンイトヒキヒイラギ *Equulites oblongus* (Valenciennes, 1835) に再同定するとともに、種子島産の 13 追加標本を報告した。Hata and Motomura (2024) は Motomura (2023a) が種子島全域から記録したヤッコエイ *Neotrygon orientalis* Last, White and Serét, 2016 (23 標本) を *Neotrygon yakkoiei* Hata and Motomura, 2024 として新種記載した。Sato and Motomura (2024) は Motomura (2023a) が種子島と馬毛島から記録したコバンハゼ属の一種 *Gobiodon* sp. 9 (3 標本) に馬毛島産 1 標本を加えたタイプシリーズ 37 標本に基づきアカネコバンハゼ *Gobiodon spadix* Sato and Motomura, 2024 を新種として記載した。Motomura (2023a) は西之表市と中種子町から 9 個体のミヤコベラ *Choerodon robustus* (Günther, 1862) を記録したが、古橋ほか (2025) はこれらをキスジイラ *Choerodon zamboangae* (Seale and Bean, 1907) に再同定した。

Motomura (2023a) の後、鹿児島大学総合研究博物館による種子島調査および種子島産魚類の寄贈によって 93 個体の魚類と複数の水中写真が得られた。これらの標本や画像資料を同定し検討したところ、種子島から 13 種、馬毛島から 11 種の初記録種が確認されたため、ここに報告する。

材料と方法

標準体長は体長または SL と表記した。体長の計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。リスト中の各種の学名と科の掲載順は本村 (2025) にしたがった。「分布」の項目には原則として種子島・馬毛島が含まれる大隅諸島内における記録を記載したが、日本国内における記録が乏しい種については国内の分布記録の記述も含めた。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、KAUM に登録された標本の生鮮時の写真は同機関のデータベースに登録されている。標本、生鮮時の写真、および遺伝子解析用組織切片は同一の番号 (KAUM-I.) で管理されている。標本を伴わない生時の写真は KAUM の写真データベースに KAUM-II. として登録されている。

種子島・馬毛島から得られた魚類リスト

エソ科 Synodontidae

Synodus variegatus (Lacepède, 1803)

ヒトスジエソ (Fig. 1A)

標本 KAUM-I. 189580, 体長 170.5 mm, KAUM-I. 189581,

体長 134.4 mm, 馬毛島沖, 水深 20 m, 釣り, 2023 年 6 月 13 日, 美座忠一。

分布 大隅諸島においては竹島, 硫黄島, 黒島, 口永良部島, 屋久島, および種子島から記録されていた (Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Jeong and Motomura, 2021; Motomura, 2023a)。本研究によって馬毛島沖からも記録された。

Trachinocephalus trachinus (Temminck and Schlegel, 1846)

オキエソ (Fig. 1B)

標本 KAUM-I. 189582, 体長 147.3 mm, 馬毛島沖, 水深 20 m, 釣り, 2023 年 6 月 13 日, 美座忠一。

分布 大隅諸島においては口永良部島, 屋久島 (目視記録で標本や写真はない), および種子島のみから記録されていた (市川ほか, 1992; 木村ほか, 2017; Motomura, 2023a)。本研究によって馬毛島沖からも記録された。

カエルアンコウ科 Antennariidae

Histrio histrio (Linnaeus, 1758)

ハナオコゼ (Fig. 1C)

標本 KAUM-I. 189579, 体長 61.1 mm, 馬毛島沖, 水深 0.1 m, 手網, 2023 年 6 月 7 日, 美座忠一。

分布 大隅諸島においては硫黄島, 屋久島, および種子島のみから記録されていた (吉田, 2013; Motomura and Harazaki, 2017; Jeong and Motomura, 2021; Motomura, 2023a)。本研究によって馬毛島沖からも記録された。

ヨウジウオ科 Syngnathidae

Hippocampus japapigu Short, Smith, Motomura, Harasti and Hamilton, 2018

ハチジョウタツ (Fig. 1D)

標本 KAUM-I. 211030, 体長 8.8 mm, 種子島 (西之表市上古田沖), 30°48'20"N, 131°01'18"E, 水深 20 m, 手網, 2024 年 7 月 28 日, 佐藤智水。

分布 日本固有種とされ、伊豆諸島, 小笠原諸島, 相模湾から薩摩半島南端 (水中写真のみ) にかけて記録されていた (Short et al., 2018; 田代・山田, 2022)。本研究によって種子島からも記録された。本標本は本種の大隅諸島からの初めての記録となる。

フサカサゴ科 Scorpaenidae

Caracanthus maculatus (Gray, 1831)

ダンゴオコゼ (Fig. 1E)

写真 KAUM-II. 613, 種子島 (西之表市浦田), 2011 年 11 月 4 日, 槐島光次郎。

分布 大隅諸島においては口永良部島と屋久島のみか

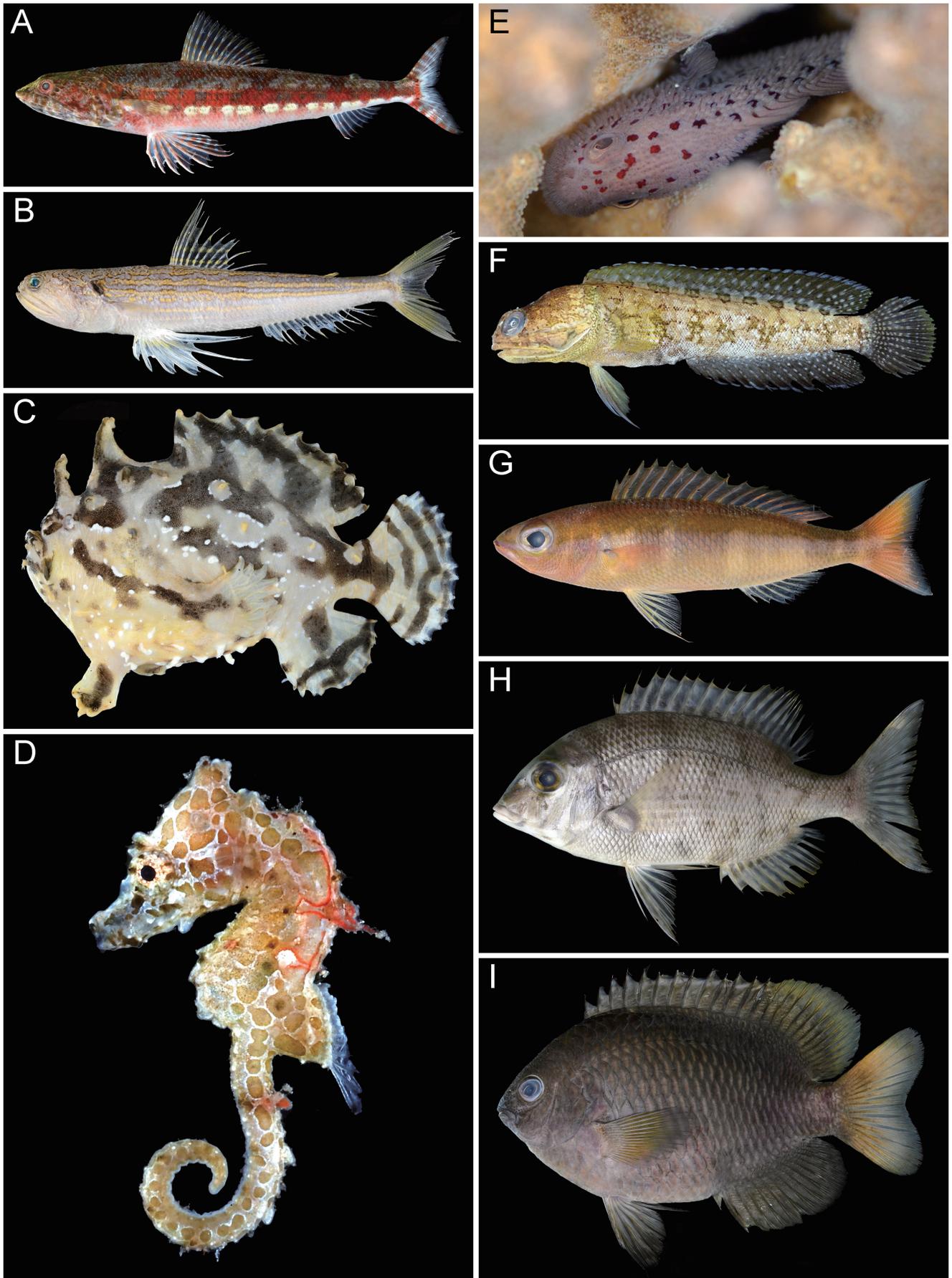


Fig. 1. Fishes from Tanega-shima (TSI) and Mage-shima (MSI) islands, Osumi Group, Kagoshima Prefecture, Japan. A: *Synodus variegatus* (Synodontidae), KAUM-I. 189580, 170.5 mm SL, MSI; B: *Trachinocephalus trachinus* (Synodontidae), KAUM-I. 189582, 147.3 mm SL, MSI; C: *Histrio histrio* (Antennariidae), KAUM-I. 189579, 61.1 mm SL, MSI; D: *Hippocampus japonicus* (Syngnathidae), KAUM-I. 211030, 8.8 mm SL, TSI; E: *Caracanthus maculatus* (Scorpaenidae), KAUM-II. 613, TSI; F: *Opistognathus variabilis* (Opistognathidae), KAUM-I. 189575, 82.6 mm SL, MSI; G: *Pentapodus aureofasciatus* (Nemipteridae), KAUM-I. 211526, 113.9 mm SL, MSI; H: *Gymnocranius griseus* (Lethrinidae), KAUM-I. 192175, 210.1 mm SL, MSI; I: *Pomacentrus taeniometopon* (Pomacentridae), KAUM-I. 187812, 93.6 mm SL, TSI.

ら記録されていた (Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017). 写真のみであるものの本研究によって種子島からも記録された.

アゴアマダイ科 Opistognathidae

Opistognathus variabilis Smith-Vaniz, 2009

シンダマオオクチアマダイ (Fig. 1F)

標本 KAUM-I. 189575, 体長 82.6 mm, 馬毛島沖, 水深 20 m, 釣り, 2023 年 6 月 13 日, 美座忠一.

分布 日本国内においては口永良部島, 屋久島, 座間味島 (水中写真), 久米島 (水中写真), 西表島 (水中写真), および与那国島から記録されていた (Smith-Vaniz, 2009, 2023; 日比野ほか, 2016; Koeda et al., 2016; 木村ほか, 2017; 古橋ほか, 2021). 本研究によって馬毛島沖からも記録された. 本標本は本種の分布の北限記録となる.

イトヨリダイ科 Nemipteridae

Pentapodus aureofasciatus Russell, 2001

ヤクシマキツネウオ (Fig. 1G)

標本 KAUM-I. 211526, 体長 113.9 mm, 馬毛島沖, 水深 25 m, 釣り, 2024 年 11 月 21 日, 美座忠一.

分布 大隅諸島においては硫黄島 (水中写真のみ), 口永良部島, および屋久島のみから記録されていた (Motomura and Harazaki, 2007, 2017; 本村, 2013; 木村ほか, 2017; Jeong and Motomura, 2021). 本研究によって馬毛島沖からも記録された. なお, 木村ほか (2017) は本種の分布域に三島村の黒島を含めたが, その根拠は示されていない.

フエフキダイ科 Lethrinidae

Gymnocranius griseus (Temminck and Schlegel, 1843)

メイチダイ (Fig. 1H)

標本 KAUM-I. 192175, 体長 210.1 mm, 馬毛島沖, 水深 40–50 m, 釣り, 2023 年 10 月 18 日, 美座忠一.

分布 大隅諸島においては竹島, 黒島, 屋久島, および種子島のみから記録されていた (Motomura and Harazaki, 2017; 望月ほか, 2022; 出羽ほか, 2022; Motomura, 2023a). 本研究によって馬毛島沖からも記録された.

スズメダイ科 Pomacentridae

Pomacentrus taeniometopon Bleeker, 1852

スミゾメスズメダイ (Fig. 1I)

標本 KAUM-I. 187812, 体長 93.6 mm, 種子島 (西之表市西町西之表港), 30°44'06"N, 130°59'34"E, 水深 1 m, 釣り, 2023 年 7 月 23 日, 桜井 雄; KAUM-I. 211569, 体長 93.5 mm, 種子島 (西之表市西町西之表港), 30°44'07"N, 130°59'34"E, 水深 1.5 m, 釣り, 2024 年 9 月 21 日, 桜井 雄.

分布 大隅諸島においては屋久島 (水中写真のみ) からのみ記録されていた (Motomura and Harazaki, 2017). 本研究によって種子島から採集され, 本種の標本に基づく大隅諸島からの初めての記録となった.

ベラ科 Labridae

Coris batuensis (Bleeker, 1856)

シチセンムスメベラ (Fig. 2A)

写真 KAUM-II. 611, 種子島 (中種子町犬城), 2009 年 11 月 21 日, 梶島光次郎; KAUM-II. 612, 種子島 (中種子町犬城), 2010 年 1 月 30 日, 梶島光次郎.

分布 大隅諸島においては屋久島から水中写真のみが記録されていた (西山・本村, 2012). 写真のみであるものの本研究によって種子島からも記録された.

Iniistius celebicus (Bleeker, 1856)

ホウキボシテンス (Fig. 2B)

標本 KAUM-I. 211530, 体長 167.9 mm, 馬毛島沖, 水深 20 m, 釣り, 2024 年 1 月 17 日, 美座忠一.

分布 大隅諸島においては口永良部島, 屋久島, および種子島のみから記録されていた (Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Motomura, 2023a). 本研究によって馬毛島沖からも記録された.

Iniistius pavo (Valenciennes, 1840)

ホシテンス (Fig. 2C)

標本 KAUM-I. 189577, 体長 199.9 mm, 馬毛島沖, 水深 20 m, 釣り, 2023 年 6 月 13 日, 美座忠一.

分布 大隅諸島においては昭和硫黄島 (水中写真のみ), 口永良部島, 屋久島, および種子島のみから記録されていた (片山, 2013; Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Jeong and Motomura, 2021; Motomura, 2023a). 本研究によって馬毛島沖からも記録された.

Iniistius twistii (Bleeker, 1856)

ヒノマルテンス (Fig. 2D)

標本 KAUM-I. 192177, 体長 189.8 mm, KAUM-I. 192178, 体長 189.3 mm, 馬毛島沖, 水深 40 m, 釣り, 2023 年 11 月 2 日, 美座忠一.

分布 大隅諸島においては屋久島のみから記録されていた (Motomura and Harazaki, 2017). 本研究によって馬毛島沖からも記録された.

Novaculops sciistius (Jordan and Thompson, 1914)

テンスモドキ (Fig. 2E)

標本 KAUM-I. 211527, 体長 134.0 mm, 馬毛島沖, 水深 25 m, 釣り, 2024 年 5 月 25 日, 美座忠一.

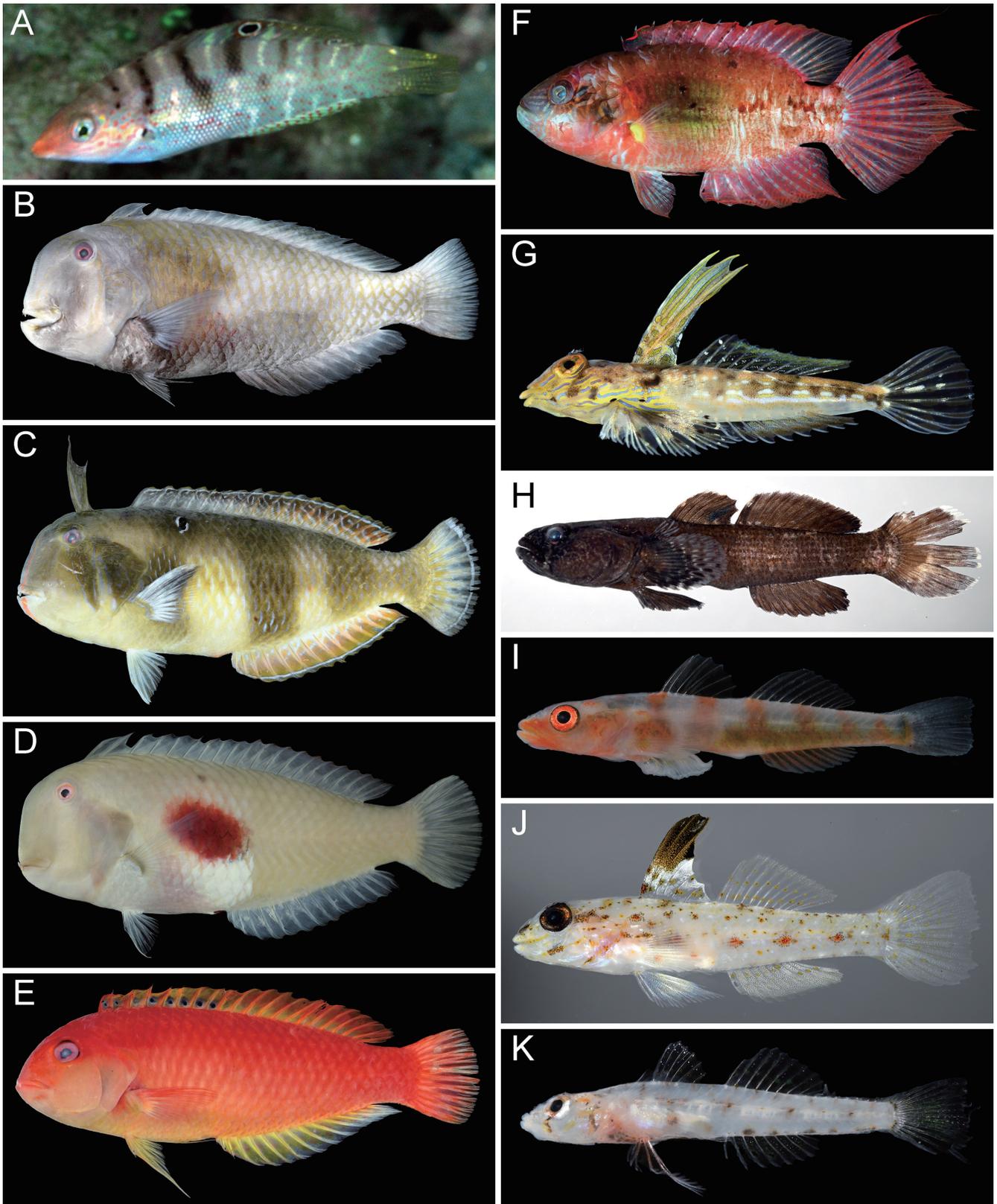


Fig. 2. Fishes from Tanega-shima (TSI) and Mage-shima (MSI) islands, Osumi Group, Kagoshima Prefecture, Japan. A: *Coris batuentis* (Labridae), KAUM-II. 611, TSI; B: *Iniistius celebicus* (Labridae), KAUM-I. 211530, 167.9 mm SL, MSI; C: *Iniistius pavo* (Labridae), KAUM-I. 189577, 199.9 mm SL, MSI; D: *Iniistius twistii* (Labridae), KAUM-I. 192177, 189.8 mm SL, MSI; E: *Novaculops sciistius* (Labridae), KAUM-I. 211527, 134.0 mm SL, MSI; F: *Oxycheilinus bimaculatus* (Labridae), KAUM-I. 211525, 90.6 mm SL, MSI; G: *Minysynchiropus kiyoeae* (Callionymidae), KAUM-I. 211049, 18.3 mm SL, TSI; H: *Bathygobius petrophilus* (Gobiidae), KAUM-I. 211062, 33.3 mm SL, TSI; I: *Bryaninops yongei* (Gobiidae), KAUM-I. 211056, 19.1 mm SL, TSI; J: *Fusigobius melacron* (Gobiidae), KAUM-I. 211051, 26.2 mm SL, TSI; K: *Grallenia arenicola* (Gobiidae), KAUM-I. 211053, 13.6 mm SL, TSI.

分布 大隅諸島においては口永良部島, 屋久島 (写真のみ), および種子島のみから記録されていた (西山・本

村, 2012; 木村ほか, 2017; Motomura, 2023a). 本研究によって馬毛島沖からも記録された.

Oxycheilinus bimaculatus (Valenciennes, 1840)

タコベラ (Fig. 2F)

標本 KAUM-I. 211525, 体長 90.6 mm, 馬毛島沖, 水深 14 m, 釣り, 2024 年 2 月 17 日, 美座忠一.

分布 大隅諸島においては硫黄島, 屋久島, および種子島のみから記録されていた (Motomura and Harazaki, 2017; Jeong and Motomura, 2021; Motomura, 2023a). 本研究によって馬毛島沖からも記録された.

ネズツポ科 Callionymidae

Minysynchiropus kiyoeae (Fricke and Zaiser, 1983)

ヒメテグリ (Fig. 2G)

標本 KAUM-I. 211049, 体長 18.3 mm, 種子島 (西之表市上古田漁港内), 30°48'16"N, 131°01'23"E, 水深 5 m, 手網, 2024 年 7 月 29 日, 佐藤智水.

分布 大隅諸島においては屋久島 (目視記録で標本や写真はなし) のみから記録されていた (国安, 1999). 本研究によって種子島から初めて記録され, 同時に本種の大隅諸島における初めての標本に基づく確かな記録となった.

ハゼ科 Gobiidae

Bathygobius petrophilus (Bleeker, 1853)

シジミハゼ (Fig. 2H)

標本 KAUM-I. 211062, 体長 33.3 mm, 種子島 (西之表市国上浦田沖), 30°49'27"N, 131°02'18"E, 水深 5 m, 手網, 2024 年 7 月 30 日, 佐藤智水.

分布 大隅諸島からの記録はなく, 本標本が種子島ならびに大隅諸島における本種の初めての記録となった.

Bryaninops yongei (Davis and Cohen, 1969)

ガラスハゼ (Fig. 2I)

標本 KAUM-I. 211056, 体長 19.1 mm, 種子島 (西之表市上古田沖), 30°48'20"N, 131°01'18"E, 水深 15 m, 手網, 2024 年 7 月 29 日, 佐藤智水.

分布 大隅諸島においては口永良部島と屋久島 (目視記録で標本や写真はなし) のみから記録されていた (市川ほか, 1992; 国安, 1999; 木村ほか, 2017). 本研究によって種子島からも記録された.

Fusigobius melacron (Randall, 2001)

ツマグロサンカクハゼ (Fig. 2J)

標本 KAUM-I. 211051, 体長 26.2 mm, 種子島 (西之表市上古田沖), 30°48'20"N, 131°01'18"E, 水深 20 m, 手網, 2024 年 7 月 29 日, 佐藤智水.

分布 大隅諸島においては口永良部島と屋久島のみから記録されていた (Motomura and Harazaki, 2017; 阿部ほか,

2024). 本研究によって種子島からも記録された.

Grallenia arenicola Shibukawa and Iwata, 2007

サザレハゼ (Fig. 2K)

標本 KAUM-I. 211052, 体長 10.7 mm, KAUM-I. 211053, 体長 13.6 mm, 種子島 (西之表市上古田沖), 30°48'20"N, 131°01'18"E, 水深 20 m, 手網, 2024 年 7 月 29 日, 佐藤智水.

分布 大隅諸島においては硫黄島 (水中写真) と屋久島のみから記録されていた (Motomura and Harazaki, 2017; Jeong and Motomura, 2021). 本研究によって種子島からも記録された.

Istigobius goldmanni (Bleeker, 1852)

ヒメカザリハゼ (Fig. 3A)

標本 KAUM-I. 211054, 体長 12.7 mm, KAUM-I. 211061, 体長 22.0 mm, 種子島 (西之表市上古田沖), 30°48'20"N, 131°01'18"E, 水深 20 m, 手網, 2024 年 7 月 29 日, 佐藤智水.

分布 大隅諸島においては屋久島のみから記録されていた (Motomura and Harazaki, 2017). 本研究によって種子島からも記録された.

Oplopomus oplopomus (Valenciennes, 1837)

ケショウハゼ (Fig. 3B)

標本 KAUM-I. 211042, 体長 21.3 mm, 種子島 (西之表市上古田漁港内), 30°48'14"N, 131°01'21"E, 水深 5 m, 手網, 2024 年 7 月 28 日, 佐藤智水.

分布 大隅諸島においては口永良部島と屋久島 (水中写真のみ) からのみ記録されていた (Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017). 本研究によって種子島からも記録された.

Tomiyamichthys emilyae Allen, Erdmann and Utama, 2019

ホタテツノハゼ (Fig. 3C)

標本 KAUM-I. 211047, 体長 43.9 mm, 種子島 (西之表市上古田沖), 30°48'20"N, 131°01'18"E, 水深 20 m, 手網, 2024 年 7 月 29 日, 佐藤智水.

分布 大隅諸島においては硫黄島と屋久島から水中写真に基づき記録されていた (Motomura et al., 2010; Jeong and Motomura, 2021). 本研究によって種子島からも記録された. 大隅諸島における標本に基づく本種の初めての記録となった.

Trimma macrophthalmum (Tomiyama, 1936)

オオメハゼ (Fig. 3D)

標本 KAUM-I. 211033, 体長 16.5 mm, 種子島 (西之表市上古田沖), 30°48'20"N, 131°01'18"E, 水深 20 m, 手網, 2024 年 7 月 28 日, 佐藤智水.

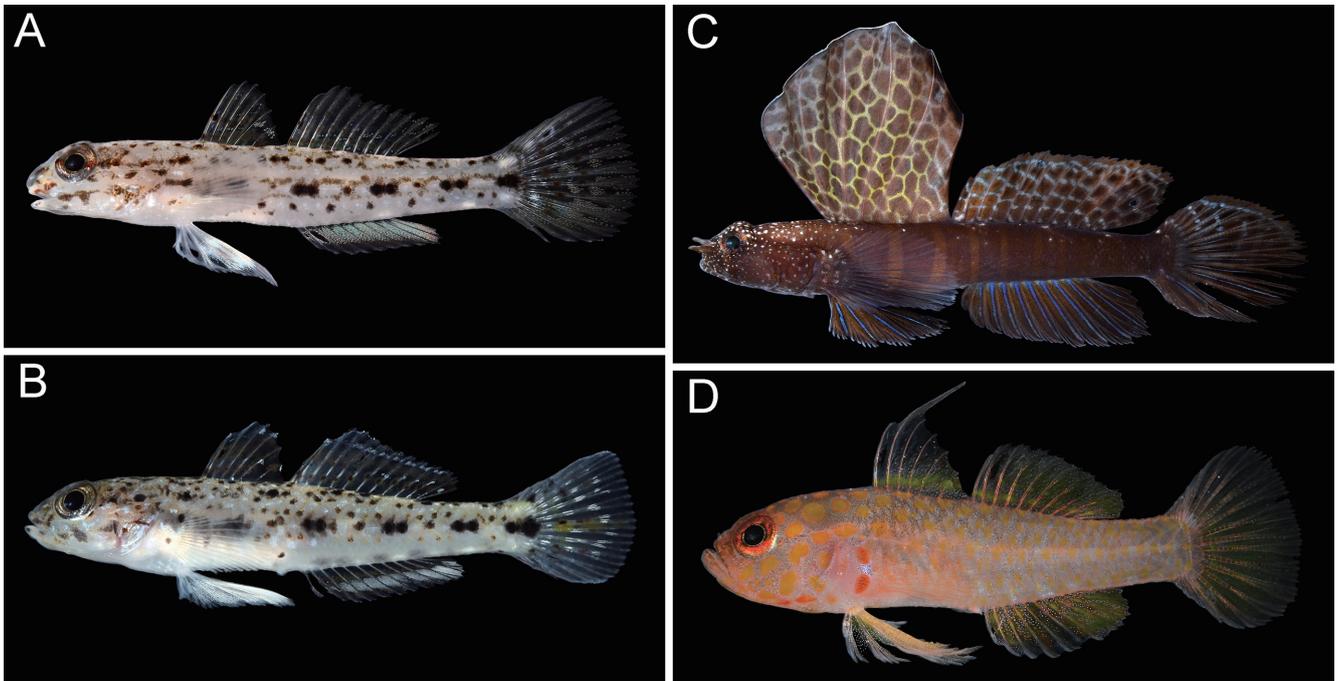


Fig. 3. Fishes from Tanega-shima island, Osumi Group, Kagoshima Prefecture, Japan. A: *Istigobius goldmanni* (Gobiidae), KAUM-I. 211061, 22.0 mm SL; B: *Oplopomus oplopomus* (Gobiidae), KAUM-I. 211042, 21.3 mm SL; C: *Tomiyamichthys emilyae* (Gobiidae), KAUM-I. 211047, 43.9 mm SL; D: *Trimma macrophthalmum* (Gobiidae), KAUM-I. 211033, 16.5 mm SL.

分布 大隅諸島においては竹島、硫黄島、黒島、口永良部島、屋久島、および馬毛島から記録されていた (Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Jeong and Motomura, 2021; Motomura, 2023a). 本研究によって種子島からも記録された。

序文に示したように、これまでに種子島・馬毛島から記録されていた魚類は 1,184 種であった。本研究によって種子島と馬毛島から新たにそれぞれ 13 種と 11 種が記録され、そのうち両島ともに初めての記録となるのは 15 種であった。したがって、種子島・馬毛島における魚類の記録総種数は 1,199 となった。

上記 15 種のうち、種子島から得られたハチジョウタツとシジミハゼは大隅諸島における両種の初めての記録となった。種子島から得られたスミゾメズメダイ、ヒメテグリ、およびホタテツノハゼの 3 種は、これまでに大隅諸島においては水中写真のみが報告されていたが、本研究において標本に基づく大隅諸島からの初めての記録となった。また、馬毛島沖から得られたシシダマオオクチャマダイは本種の分布の北限記録となった。

なお、これまで種子島からは水中写真のみに基づく記録が知られていた以下の 4 種の標本が Motomura (2023a) 以降の調査によって種子島の西之表市上古田漁港内から得られた — ミスジリュウキュウスズメダイ *Dascyllus aruanus* (Linnaeus, 1758): KAUM-I. 211039, 体長 40.7 mm; クロホシハゼ *Cryptocentrus nigrocellatus* (Yanagisawa, 1978): KAUM-I. 211035, 体長 58.0 mm; シノビハゼ *Ctenogobiops*

pomasticus Lubbock and Polunin, 1977: KAUM-I. 211027, 体長 53.7 mm; コモンヤツシハゼ *Vanderhorstia* sp. 2: KAUM-I. 211038, 体長 42.6 mm.

謝 辞

京都大学の松沼瑞樹氏にはササノハゴチの同定をしていただいた。種子島在住の美座忠一氏、沖縄環境調査株式会社の桜井 雄氏、元鹿児島大学大学院農林水産学研究科の久保田昂樹氏、および鹿児島大学水産学部の渡辺隆太氏には種子島・馬毛島から得られた魚を寄贈していただいた。原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館のボランティアのみなさま、同館の大西聡子氏、同館魚類分類学研究室の学生のみなさまには、標本の作製と登録作業においてご協力いただいた。種子島 Sea-Mail の林哲郎氏には種子島におけるダイビング調査にご協力いただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651・23K20304・24K02087)、JSPS 研究拠点形成事業— B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009)、文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」、および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業 (奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル) の援助を受けた。

引用文献

- 阿部健志郎・清和凌河・坂井陽一・古橋龍星・本村浩之. 2024. 口永良部島から得られた南限更新記録2種を含む魚類57種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 45: 1–14. [URL](#)
- 出羽優風・望月健太郎・松岡 翠・中村潤平・石原祥太郎・橋本慎太郎・佐藤智水・畠中柚菜・本村浩之. 2022. 大隅諸島黒島から得られた初記録の魚類86種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 27: 15–31. [URL](#)
- Dewa, Y., S. Tashiro and H. Motomura. 2023. A new species of the genus *Enneapterygius* (Perciformes: Tripterygiidae) from Japan and the Philippines, with a synopsis and synonymy of related species. *Zootaxa*, 5374: 333–360.
- Fujiwara, K., H. Motomura and G. Shinohara. 2023. *Opistognathus ctenion* (Perciformes, Opistognathidae): a new jawfish from southern Japan. *ZooKeys*, 1179: 353–364. [URL](#)
- 古橋龍星・久高健飛・本村浩之. 2025. ベラ科イラ属の標準和名ミナペイラはキスジイラの新参異名. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 51: 25–35. [URL](#)
- 古橋龍星・上野大輔・原崎 森・本村浩之. 2021. 標本に基づく屋久島初記録のアゴアマダイ科魚類シシダマオオクチャアマダイ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 7: 70–73. [URL](#)
- Hata, E. and H. Motomura. 2024. *Neotrygon yakkoiei*, a new bluespotted maskray (Dasyatidae) from Japan. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-024-00989-7 (1 Aug. 2024).
- 日比野友亮・笹木大地・木村清志. 2016. 八重山諸島と那国島から得られたシシダマオオクチャアマダイ (新称) *Opistognathus variabilis* (アゴアマダイ科). *魚類学雑誌*, 63: 33–38. [URL](#)
- 市川 聡・砂川 聡・松本 毅. 1992. 屋久島産魚類の概観, pp. 19–46. 屋久島沿岸海洋生物調査団 (編) 屋久島沿岸海洋生物学術調査報告書, 屋久島.
- Jeong, B. and H. Motomura. 2021. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 16: 1–116. [URL](#)
- 片山英里. 2013. ベラ科, pp. 241–272. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村一 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太. 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp. [URL](#)
- Kobayashi, H. and M. Sato. 2023. The genus *Ophiocara* (Teleostei: Butidae) in Japan, with descriptions of two new species. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-023-00919-z (10 Aug. 2023), 71: 119–153 (7 Jan. 2024).
- Koeda, K. and M. Bessho-Uehara. 2024. A review of the genus *Pempheris* (Teleostei, Pempheridae) found in Japan and Taiwan. *ZooKeys*, 1220: 123–163. [URL](#)
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada and T. Uchiyama. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. *The Kagoshima University Museum, Kagoshima*. v + 120 pp. [URL](#)
- 国安俊夫 (編). 1999. 生態系多様性地域調査 (屋久島沿岸海域) 報告書. 環境庁自然保護局, 東京・鹿児島自然愛護協会, 鹿児島. 64 pp.
- Matsumoto, T., N. Muto and H. Motomura. 2023. *Neomerinthe ignea*, a new species of scorpionfish (Teleostei: Scorpaenidae) from the western Pacific Ocean, with a review of records of *N. erostris* (Alcock 1896). *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-023-00931-3 (6 Nov. 2023), 71: 317–332 (3 Apr. 2024).
- 望月健太郎・是枝伶旺・佐藤智水・本村浩之. 2022. 大隅諸島竹島から得られた北限更新記録を含む同島初記録の魚類43種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 23: 19–31. [URL](#)
- 百瀬 樹. 2024. 本州から得られたヒメハゼ属魚類4種の記録とその識別形質についての検討. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 45: 19–45. [URL](#)
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. [URL](#)
- 本村浩之. 2013. イトヨリダイ科, pp. 158–160. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村一 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- Motomura, H. 2023a. An annotated checklist of marine and freshwater fishes from Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250. [URL](#)
- Motomura, H. 2023b. Erratum of Motomura (2023). *Kagoshima University Museum, Kagoshima*. 1 p. [URL](#)
- 本村浩之. 2024. 第1編自然, 第3章生きものの世界, 第3節脊椎動物, 種子島の魚類, pp. 97–104. 西之表市史編さん委員会 (編) 西之表市史. 上巻. 株式会社ぎょうせい, 東京.
- 本村浩之. 2025. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 29. [URL](#)
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2007. *In situ* ontogenetic color changes of *Pentapodus aureofasciatus* (Perciformes: Nemipteridae) off Yakushima Island, southern Japan and comments on the biology of the species. *Biogeography*, 9: 23–30.
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183. [URL](#)
- Motomura, H., K. Kuriwa, E. Katayama, H. Senou, G. Ogihara, M. Meguro, M. Matsunuma, Y. Takata, T. Yoshida, M. Yamashita, S. Kimura, H. Endo, A. Murase, Y. Iwatsuki, Y. Sakurai, S. Harazaki, K. Hidaka, H. Izumi and K. Matsuura. 2010. Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan, pp. 65–248. In Motomura, H. and K. Matsuura (eds.) *Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan*. National Museum of Nature and Science, Tokyo. [URL](#)
- Motomura, H. and M. Matsunuma. 2022. Fish diversity along the Kuroshio Current, pp. 63–78. In Kai, Y., H. Motomura and K. Matsuura (eds.) *Fish diversity of Japan. Evolution, zoogeography, and conservation*. Springer Nature Singapore Pte Ltd., Singapore.
- 西山一彦・本村浩之. 2012. 日本のベラ大図鑑. 東方出版, 大阪. 303 pp.
- 緒方 隆. 2023. 青いりボン海中に彩り. ハナヒゲウツボ 西之表沖に生息. 南日本新聞, 2023年9月16日.
- 緒方 隆. 2024. にらみを利かせた表情は歌舞伎のよう? 消しゴム. 南日本新聞, 2024年4月23日.
- Sato, M. C. and H. Motomura. 2024. *Gobiodon spadix*, a new coral goby (Teleostei: Gobiidae) from southern Japan. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-024-00950-8 (29 Feb. 2024), 71: 422–431 (10 July 2024).
- Short, G., R. Smith, H. Motomura, D. Harasti, H. Hamilton. 2018. *Hippocampus japapigu*, a new pygmy seahorse from Japan, with a redescription of *H. pontohi* (Teleostei: Syngnathidae). *ZooKeys*, 779: 27–49. [URL](#)
- Smith-Vaniz, W. F. 2009. Three new species of Indo-Pacific jawfishes (*Opistognathus*: Opistognathidae), with the posterior end of the upper jaw produced as a thin flexible lamina. *Aqua, International Journal of Ichthyology*, 15: 69–108.
- Smith-Vaniz, W. F. 2023. Review of Indo-West Pacific jawfishes (*Opistognathus*: Opistognathidae), with descriptions of 18 new species. *Zootaxa*, 5252: 1–180.
- Suzuki, H. and S. Kimura. 2023. Taxonomic revision of the genus *Equulites* Fowler 1904 (Acanthuriformes: Leiognathidae). *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-023-00935-z (6 Dec. 2023), 71: 213–259 (3 Apr. 2024).
- 田代郷国・山田守彦. 2022. ヨウジウオ科, pp. 54–59. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 吉田朋弘. 2013. カエルアンコウ科, pp. 18–19. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村一 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)